



(第9期) 第6回まつもと子ども未来委員会の報告

8月27日(日)に勤労者福祉センターでまつもと子ども未来委員会を行いました。
この日は、23人の委員と大学生サポーター1人が参加しました。

1 松本市博物館の出前講座

里山の保全に興味を持っているグループが、里山の生態系に関心があったことから、市の博物館に松本市の生き物に関する出前講座を行っていただきました。

松本市は、3,000メートル級の山々、そこから流れ出る河川、まちの中の湧水など、豊かな自然環境に囲まれており、また、草原や里山、田園地帯など、様々な環境があることから、多種多様な生き物がいるそうです。

里山・里地は、人の手が入ることによって雑木林や草地などの環境が維持されている場所で、様々な生き物が住んでいましたが、近年、里山里地の荒廃が進んでおり、そこに住む生き物の種類が減っているそうです。



2 青森市子ども会議委員とのオンライン交流について

次回の未来委員会で、青森市の子ども会議委員とオンライン交流を行うことになりました。当日は、お互いのまちの紹介、子どもの権利やまちなどに関するクイズ、お互いの活動内容の発表を予定していることから、それぞれ発表者を決定しました。

3 市内見学の振り返り、活動テーマに関する話し合い

8月1日に行った市内見学の振り返りと活動テーマに関する話し合いを進めました。

| グループ | 市内見学の振り返り／松本市の現状・課題 |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 交通・道路事情 校則 | 道がせまい、ガードレール・縁石が少ない、ごみ捨て場があり通りにくい。 校則を把握していない、時代に合わない、先生の意見ばかり反映される。 |
| 里山を知って もらう | 人が手を加えれば里山を取り戻すことができる、里山を管理する人が高齢化している。 / 若い人が里山のことを知らない。 |
| ポイ捨て、 ボランティア | ポイ捨てする人が多い、ごみ拾いする人が少ない、リサイクルできていない。 |
| PR、三ガク都 | 世界的な音楽の才能教育が松本で生まれた。 / 子ども目線のPRが少ない、三ガク都のPRが不十分。 |